

失敗に学ぶ知恵

船引小学校長 安生昌弘

皆さんは『イソップ童話』を知っていますか。ヨーロッパに古くから伝わるお話を集めたもので、「アリとキリギリス」とか「ウサギとカメ」とか「オオカミと少年」など、たくさんのお話がある中に入っています。その中の一つに「北風と太陽」というお話があります。

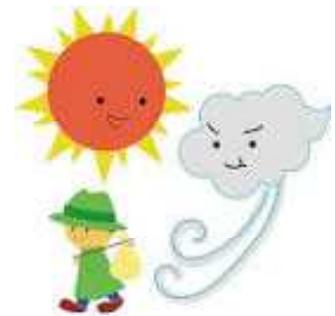
“ 冬のある日、広い草原の一本道を一人の旅人が歩いておりました。それを見て、北風は太陽に言いました。

「あの旅人の上着をどちらが先に取り去ることが出来るか競争しよう」

北風は力いっぱい風を吹きつけました。しかし、旅人は寒さに震え、上着で体をギュッとくるみました。そこで、北風はもっと強く吹きつけました。しかし、旅人は身を守るように上着をさらにきつく巻きつけました。失敗です。

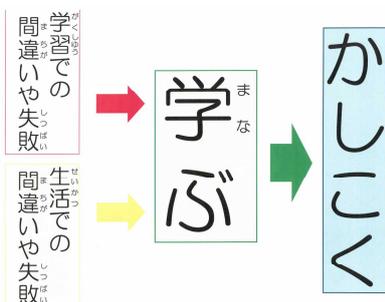
今度は、雲の合間から太陽が現れました。そして、旅人を燦々(さんさん)と照らしました。旅人は体が温かくなって気持ちよくなり汗も出てきて、上着を脱ぎました。太陽は、旅人の上着を取り去ることに成功しました。 ”

北風は、なぜ2回も失敗をしたのに、太陽は1回で成功することが出来たのでしょうか。何となく分かりますね。北風は1回目の失敗を反省することなく同じように繰り返してしまったから2回目も失敗したのです。それに対して太陽は北風の失敗を見て考えて、北風と違う方法で成功することが出来たのです。太陽は、かしこいですね。勉強することばかりでなく、失敗したことを無駄にしないで次に活かしていくことも「学ぶ」と言います。つまり、失敗に学んでいくと、「かしこく」なることが出来るのです。



みんなが毎日やっている授業も自分の学習も同じです。間違いや失敗をして良いのです。それを無駄にせず次に活かして行くことが「学ぶ」ということなのですから……。授業や学習の中で間違ふことや失敗することは恥ずかしいことではありません。

また、普段の生活でのことも同じです。いけないことを言ったり、やったりして、家の人や先生に叱られたことがある人もいます。誰でも言葉や行動の失敗をします。失敗したことを無駄にせず活かしていくことも「学ぶ」ことになります。



本当に恥ずかしいのは、間違ふことや失敗することではなく、学ばずに同じ間違いや失敗を繰り返してしまうことなのです。間違いや失敗を恐れずにチャレンジしてダメだったら、まず反省することが大事です。そして次に、間違いや失敗を生かして学んでいくのです。「反省できる人だけが、より良い人になれる」と言われるのは、そのためです。さらに、授業や生活で間違いや失敗をすると、それは周りの友達が「北風と太陽」の太陽のように失敗を見て学ぶことへとつながります。自分の間違いや失敗が周りの友達の学びに役立つのです。授業や学校生活が行われる教室は、そんな素晴らしい場所なのです。授業や生活での間違いや失敗は、自分だけでなく、みんなの「学ぶ」ためのチャンスです。授業や学習、そして学校生活の中でたくさん間違いや失敗に学んで、どんどん「かしこく」なりましょう。